

☆☆「道徳授業地区公開講座」による活用☆☆

「“いのち”の大切さを考える」

・講師 秋田 昌子氏

◎この授業はこれまで多くの中学校でも展開され、多感な時期の中学生にも心に残る授業となってきました。小学生、中学生、保護者向けそれぞれへのプログラムに対応できます。



『トラさんが生きた！みんなも生きた！』 ～老いと人間といのちと向き合う～

- ・道徳授業地区公開講座として、児童と保護者が同席して出前授業を受けました。終了後児童は教室で感想を書き、保護者は各学級や家庭でも話題にし、子どもと同じ題材で考える機会としました。

【保護者の感想文から】

- ・公開講座は核家族が増えている現代では学べない、気づかない事を教えていただける良い機会になると思いますので、もっと簡単に短くても良いので、低学年にもしていただけたら有り難いと思いました。私自身も忘れかけていた子どもの純粋な心、家族のきずなや、命を大切にすることを改めて考えさせられ、胸を打たれました。お話されていた方の話し方もとても聞き取りやすく、感情も込められていて、児童たちにも理解し易かったことと思います。このような素晴らしい講座に参加させて頂きましてありがとうございました。
- ・道徳公開講座に参加しました。「トラさんは生きる」お孫さんの介護体験をご本人の言葉で聞くことができ、私自身も数年前余命宣告をされた義母の介護を思い出しました。昨年他界しましたが、学校公開後、子どもと介護していた時のお互いの思いを再び語り合うきっかけとなりました。人の生きる、亡くなるという現実を体験することで人に対する思いやりや生命を大切にすること、誰もが生きる使命があることを実感したようです。次回もこのような講師の方の講座をお願いします。
- ・公開講座のお話を聞かせていただきました。学校帰りに親子でどう感じたか話し合いながら、親と子では受け取り方も違い、子どもの考え方にも共感しました。親子で聞いて良かったなと思いました。
- ・道徳公開講座は、4～6年生だけでなく、子どもたち全員に聞いてもらいたいと思える内容でした。講師の秋田さんご自身おっしゃっていましたが、介護は父母だけであるものと決めつけがちですが、子ども(孫)もちゃんとお世話ができるし、更には子供からそのことを教えられた、という実体験であるからこそのお話に感動しました。また、ご高齢の方(トラさん)のお言葉、「人は他の人と比べて、自分は劣っている、できないとすぐ口にするけど死んでいなくなることを思えば、今を生きているだけで、なんでも立派にできている」にも重みを感じ、考えさせられました。子どもと一緒に聞いて、一緒に考えたいと思える講座でした。

【児童の感想文から】

- ・この話を聞いて命の可能性が伝わりました。ぼくはトラさんから、秋田さんから、子どもたちからもたくさんの事を教わりました。ぼくはおばあちゃんからしているような立場になれるのだと思いました。孫というだけでなく、教わる人、教える人にもなれる。だからおばあちゃんへのかかわり方にも可能性があるなと思いました。ぼくにも80歳をすぎた祖父母がいます。2人とも元気ですが、これからはもっと命を意識していっしょにすごしたいと思います。(4年)
- ・今日のお話を聞いて、自分のおばあちゃんが今日死んでしまうかもしれない、そんな時自分だったらどうするか、そして生きることの大切さがすごく分かりやすくなっていて、すごいと思いました。これからはもっとおばあちゃんに感謝して、生きていることにありがたみをもって生きていきたいです。「おばあちゃん、大好き」(5年)
- ・3日～4日の命が思いやりや気持ちだけでかわってしまうんだなと思いました。やっぱり、あきらめるんじゃない、のりこえていく気持ちが大切なんだなと思いました。今日のことを行動にうつすのはむずかしいけど、少しでもちょうせんしてみようと思いました。お母さんやお父さんにも長生きしてほしいです。(5年)
- ・トラさんは心ぞうの病気、認知しょう、骨折を家族みんなで乗り越えてすごい。トラさんのようにお年寄りの人は自分の不自由とたたかっているのだから、大切にしないといけないなと思った。どんなに体が不自由でも、がんばれば少しは自由になれると思うので、人、物を大切にすることを忘れずに、今の家族と温かい生活をしていきたいです。(5年)
- ・自分には認知症の知り合いはいません。しかし、トラさん家族がトラさんの事を、「何でこんなことがわからないのか」と思ったり、あきれたりするくらい面倒を見るのが大変ということがわかりました。認知症の人もそうなる前はずっと一緒に助け合って生きてくれたことを忘れないように、感謝したいです。(6年)